未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「次世代情報社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

Human centric デジタルツイン構築による新サービスの創出

3. 研究開発課題名

360 度映像技術による回遊・滞在するデジタルツイン空間の創出

4. 研究開発代表者名(機関名および役職は評価時点)

相澤 清晴 (東京大学大学院情報理工学系研究科 教授)

5. 評価結果

評点: A 優れている

総評:

本研究開発課題は、実写映像を用いた実世界メタバースプラットフォームにより、写実的な探訪体験を提供するバーチャル空間の構築を目指すものである。このプラットフォームでは、360 度映像を撮るだけで他者がそれを追体験すること、またバーチャル空間内での他者とのインタラクションが可能となることから、様々なサービス・ビジネスへの応用が期待できる。

探索研究では、360度映像からのムービーマップ構築基盤、編集・更新ツール、ムービーマップ映像からのバーチャル空間の構築、アバター導入などの技術開発を達成し、基礎技術を確立したことは評価できる。

今後は、防災などを含む、より広範な応用への適用技術、プラットフォームを維持できる仕組みの構築、また技術の標準化などに向けて研究開発が発展することを期待する。

以上